

茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学専攻

令和4年度前期 専攻教育点検報告書

令和4年9月27日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田隆郎

1. 実施日時と場所

令和4年9月27日（火）11:00～12:10 12:50～14:30 Teams オンライン

2. 出席者

常勤教員：山田 小林 横木 原田 桑原 信岡 熊澤 藤田 久野 平田 車谷 辻村 肥田 榎本
一ノ瀬 吉田 稲用（全常勤教員19名のうちの17名が出席）

（常勤教員のうちの欠席者：遠藤（クロス教員契約時間外）増永（サバディカル））

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 都市システム工学専攻 教育改善員会議事録

資料1-2 都市システム工学科/専攻 FD 研修会議事録

資料2 2022年度前期 学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会 議事次第

資料3 2022年度前期 都市システム工学専攻 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり。

常勤教員担当科目分： 20科目／常勤教員担当科目総数 20科目

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数 0科目

4. 2 点検した科目

地盤防災工学特論，応用土質力学特論，土木計画学特論，建築都市計画学特論，リスク
マネジメント特論，構造解析学特論，建築環境設計学特論，応用水理学特論Ⅰ，水質工学特
論，建築都市デザインスタジオⅠ，建築史・意匠特論Ⅰ，建築都市デザインスタジオⅡ，社会
基盤デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，建築デザ
イン特別研究Ⅰ，サステナビリティ学特別演習Ⅰ

の17科目

前期に開講した専門科目の総数20科目中17科目（85%）

＜資料準備中のため 2022 年度後期 FD で点検を行う科目＞

- ・ サステナビリティ学最前線
- ・ 国内実践教育演習
- ・ ファシリテーション能力開発演習 I

4. 3 具体的な点検方法

前期に開講した 20 科目中 17 科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料 1-1 の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 3～5 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、実施した。
- ・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じ議論した。
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況（学部の授業点検に用いたものと同じもの）についても、確認した。

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験、特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習I, 建築デザイン特別演習I, サステナビリティ学特別演習I, 社会基盤デザイン特別研究I, 建築デザイン特別研究Iの 5 科目については、「①実施内容と状況」、「②実施の証拠と保存状況の確認」、「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し、「④学生からの報告と指導への要望」を確認した。

内容については 資料 3 授業点検改善表集 に収録のとおりである。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。
- ・ 学生の履修のしやすさ等に配慮するため、2 単位であった科目の一部を、今年度から、学期をまたぎ 1 単位ずつに分けて開講するように変更して実施した。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 土木計画学特論では、最近の費用便益分析の動向について 3 教員で紹介＋議論をしたのが好評であった。
- ・ リスクマネジメント特論では、例年よりも難しい内容でオンデマンド資料を活用しつつ、演習課題の高度化と相互関連性の強化を行ったが、成績が下がることなく、理解促進は

できた。

- ・ 建築都市計画学特論は、本年度から横断科目の位置づけになったため、社会基盤プログラム学生にも関心が持てるよう欧米の都市計画の講義と取り入れながら、実施した。結果的に受講したのは建築プログラム学生だけであり、専攻として周知が重要。
- ・ 応用水理学特論Ⅰでは、今年から1単位×2に変えたが、短期間で単位が決まるので学生の集中力は前年度よりあがっていた受講生が多いと感じる一方、基礎力が足りない受講生は全般にわたって低調であった印象を持った。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 一部、中間アンケートが実施できなかった科目があったため、次年度から改善する。
- ・ 1単位化した科目については、後期の履修状況も合わせて確認した上で、引き続き、効果の検証が必要。

6. 教育改善活動

- ・ 詳細は、資料1-2 参照
- ・ 構造力学において、manaba のテスト機能を活用して、学生の自己学習を促す試みが紹介された。

授業のねらいと演習問題、小テストの関係について、説明があったあと、具体的なmanabaでの作成方法について説明があり、質疑、意見交換を行った。

- ・ 授業アンケートの回収率向上について（紙ベースの時は全体的に7～8割程度回収できていたが現在は5～6割程度になっている）、及び、評価が高い授業を実施するためには何が必要かについて意見交換を行った。

回収率向上の取り組みが紹介され、また、教育改善委員会から配布されている「回収率の向上のコツ」を参考にしてほしい旨の説明があった。

推奨授業の評価に際しても、授業の工夫とくに勉学意欲を引き出して予習・復習を実施するような工夫を行なうことが重視されていることが紹介され、学科の授業点検においてもこれらの工夫をより明確に他教員に紹介してもらうことを重視したいとの提案があった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類をteamsの学科会議チームに設置した学科FDチャンネル内に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

前回の産学協同カリキュラム改良委員会では、おもに土木・建築の融合に関する教育で

の扱いについて提案をいただき、学科・専攻としては R6 年度から始まるカリキュラムへの反映を目指しており、各教員間ネットワークの活動が進められており、また、専攻全体として取り組んでいる。

9. その他

特になし。